

2020 課題部会 の 取組



“協働” 研究の成果を日々の実践に生かしましょう！

今年度の専門部会研究の成果の一端を紹介しています。詳しくは、研修センターに保管している各部会のレポート集、部会作成資料、映像データ等をご活用ください。資料の貸し出しも可能です。

各部会の“協働”研究の成果を全会員で共有し、目の前の子どもや課題を意識した日々の実践を語り合いながら、最大限子どもの学びに還元していきましょう！

集団づくり…レポート集作成

今年度は実践したことを中心に、レポート執筆をお願いしました。感染症の影響があり、「集団づくり」の活動そのものが難しい状況にありましたが、その中でも工夫して実践を継続していただいている様子がレポートに表れていました。「青葉中校区の小中連携事業～Zoomを活用して」「『コロナ』に対応した学級システム作り」など、感染症対策を講じた上での集団づくりの実践や、「『学級交流』による集団生活向上プロジェクト」「コグトレ」など、日常生活を通して集団づくりに取り組んだ実践など、今年度も優れた実践が集まりました。

協議・交流はできませんでしたが、レポート集を参考にしながら、日々の実践に生かしていただければと思います。

生き方…分科会別でレポート作成

今年度は、分科会別にレポートテーマを設定して、レポート作成をお願いしました。

第1分科会は、昨年度実技研修をした「アダブテッドスポーツ」の振り返りと、それを踏まえた実践についてのレポートとしました。実際にポッチャの道具を学校予算で購入して実践につなげたレポートや、カラーリングの実践、またパラリンピックの視聴を通じた障がい者スポーツに関する実践などが見られました。

第2分科会は、昨年度の「ヒューマンコミュニケーション」の内容を生かした実践についてのレポートとしました。人と人とを「つなぐ」方法、日常の言葉がけなど、ちょっとした取組を積み重ねることが効果的になる実践なので、是非取り入れていただきたいです。

道徳…レポートデータの配付

レポート作成を中心に取り組みました。部会員数の増加に伴い、レポート数も増えたので、レポートデータをCD-Rに入れて配付する形をとりました。これは次年度以降もレポートデータを蓄積していき、いつでも実践を参考にして自分の授業に取り入れやすい形になっています。また、協議の場がないことから、同時にアンケートも配付し、良かった実践について記載していただくなどして、部会員に成果を還元することとしています。

すべてのレポートが素晴らしい実践報告となっていますが、「ともだちや〈信頼・友情〉（小3年）」「泣き虫〈公正・公平〉（小6年）」「あの日生まれた命〈生命の尊さ〉（中3年）」などのレポートが特におすすめとなっています。

教育課程…レポート集の作成

例年と同様、レポート集を作成しました。今年度は協議の場を設けることができませんでしたが、各自の取組で研究を継続することができました。今年度はレポートを交流する場がないため、全レポートをDVD-Rにして配付し、多くの実践を交流することで見識を広げることとしました。

カリキュラム・マネジメントに関しては、「学校経営プログラムを活用したカリキュラム・マネジメント」について、「調査・データ集に基づいたPDCAサイクルによる改善」「小中一貫教育への取組」などについて、総合的な学習の時間に関しては「（感染症に関わって）学習内容の大幅な見直し」「ふるさと教育における地域素材」などの実践レポートが集まりました。

情報教育…web上でのレポート交流

今年度は部会員が対面して交流することができなかったので、web上でのレポート交流を行いました。「子どもの情報活用能力の育成を目指した授業実践（情報の収集・表現・処理・プログラミング等ができる能力）」と「教師がICT機器や図書館を活用した授業実践（インターネット、新聞、図書館資料などの情報媒体すべてを含む）」「情報モラルやマナー」の三つを柱にした情報教育の推進を図るための実践や成果と課題をまとめていただきました。また、閲覧後の感想をgoogleフォームによるアンケートにまとめていただいて、交流・協議に代えることとしました。

また、同時にICT環境及びGIGAスクール構想に関する学校アンケートも行い、各校でどのような準備がなされているかについて調査しました。次年度以降の研究につなげていければと思います。

国際理解教育…理論研修会の実施

10月にJICAから講師をお招きして、「100リットルの水」と題して研修会を行いました。講師の谷本亜紀氏は、青年海外協力隊に参加した経験を基にして、「100リットル以内で3日間過ごすとしたら」「フォトランゲージ～3枚の写真から」という2つのワークショップを中心にして研修会を行いました。

日本にいれば普段潤沢に使える水も、アフリカでは様々な課題を抱えながら使われているという課題を「自分事として捉える」ことをねらいとしたワークショップです。参加した部会員は、グループ協議を通して、ちょっとした意識の変化と協力で救える命があることを改めて感じることができました。

なお、この研修会の様子はDVDに収録して部会員に配付する予定です。

環境教育…レポート集の作成

今年度は部会員が交流する機会が持てなかったため、レポートを作成していただいたデータを集約し、事務局でそれぞれに見解を出して部会員に環流しました。

レポートのテーマは、SDGsに関連した各校の取組についてとしました。管内各校で17の項目すべてに関わる教育活動が行われていることがわかりました。「つくる責任・つかう責任」という項目について最も多く取り組まれ、環境問題を取り上げている教科学習との結びつきが強いことが確認されました。

また、新型コロナウイルス感染症と環境教育との関連についてもレポート内で報告が多数ありました。リサイクルと衛生の問題など、これまで環境保全のために取り組んできたことを見直さなければならない現状についても交流できました。

文化活動…役員作成レポート・本の紹介レポート

第1分科会では、白老町に開設された民族共生象徴空間「ウポポイ」に関する役員作成レポートを配付しました。見学の際のポイントや事前・事後学習で取り上げることなどをまとめて部会員に提示し、アンケートで意見をいただきました。「非常にわかりやすかった」「旅行的行事の取組の参考にしたい」という意見をいただきました。

第2分科会では、例年に引き続き「おすすめ本の紹介」を各部会員からしていただき、事務局でまとめたものを環流しました。一堂に会する機会はありませんでしたが、例年以上に報告があり、資料として活用していただいた様子がうかがえました。

特別支援教育…レポート集の作成

今年度は研究テーマに沿って、レポート提出を行っていただきました。テーマは「通常学級における学習に困難のある児童生徒への支援について」（LD等への対応）、「通常学級における社会性の発達の遅れやコミュニケーションに障がいがあり、主に集団での生活場面に困難のある児童・生徒の支援について」、「通常学級における特別支援を要する児童生徒の校内支援体制や関係機関との連携について」の3つです。

学習支援のためにICT環境の整備すること、具体的に指示を与える等の手法が有効であること、保護者連携、他機関連携が重要であることなどが、報告の中からうかがえました。具体的な事例については、レポート集をご参照ください。

へき地・複式教育…授業実践と指導案交流

今年度は浜益小学校、および支笏湖小学校にて研究授業を行いました。本来であれば授業公開を行い、事後協議で成果と課題をまとめる予定でした。しかし感染症対策のため、指導案、及びオンライン、もしくはDVDに収録した映像資料を見て、各校で行われた事後協議とまとめを交流し、それらに対する部会員の意見を事務局が集約して配付する形をとりました。

浜益小学校では、小学校低学年の国語の授業が公開されました同時間接について、「Which型課題」について、さらにファシリテーションについてうまく活用されているという意見がありました。また支笏湖小学校では小学校中学年の算数の授業が公開され、間接指導時の学習と、教科リーダー学習の充実について協議がなされました。

人権・平和…レポート集の作成

レポートの執筆を部会員にお願いし、紙面交流を行いました。

共生・人権教育については、民族共生象徴空間「ウポポイ」の開設によって、修学旅行先に選定されて事前・事後学習でアイヌ文化学習を取り上げて行うなど、教育課程上に位置付けて行う学校が増えた様子がうかがえました。

平和教育については、平和集会等全校的な活動を行っている学校は、今年度も引き続き取り組んだ様子が報告されました。今年は戦後75年を迎えたこと、また期せずして8月6日が登校日となったことから、戦争や平和について取り上げる機会が多かったようです。一方で、教育課程に明確に位置付けると平和について取り上げる機会が増えるので、条件整備を進める手立てについても報告されました。

安全・健康…レポート集の作成

今年度は、昨年度と同様に ①安全・危機管理、防災・減災教育、学校環境・環境整備、②食育と健康、体力向上、の2つのテーマに加え、感染防止のための環境整備や、臨休によって低下した児童生徒の体力向上の実践などについてのレポートも寄せられました。

特に新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、各校で工夫して取り組んでいる様子が紹介されました。子どもたちの安全と健康を守るために、日々変化する感染状況を鑑みながら対応されている様子について、また、様々な工夫や緊急時の対応について報告されています。是非参考にいただければと思います。

生徒指導…レポート集の作成

例年と同様、レポートによる報告を行いました。全部会員による研究協議はできませんでしたが、役員と推進委員が集まってレポート集の交流を行い、成果をまとめることができました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止についての報告が多くありました。指導体制について、また生徒や家庭への影響についての各校での対応について、具体的な事例が記載されていました。また例年通り、SNSのトラブル等生徒指導の実態とその対応についても事例が報告されていました。

感染症対策を含めて、生徒指導上の諸問題が年々複雑化していますが、それらに適正かつ効果的な指導ができるよう、本部会レポート集を参考にいただけたらと思います。

石教研ホームページにも、各部会の今年度の研究成果である部会作成資料やレポート一覧等が紹介されています。ぜひ各部会のホームページをご覧ください。

また、部会が作成した資料やレポート集は、研修センターにて保管しています。貸し出しもできますので、ぜひ有効にご活用ください。

来年1月29日発行予定の『石狩の教育』第66集では、各部会の研究成果を掲載します。今後の実践の参考にしてください。